

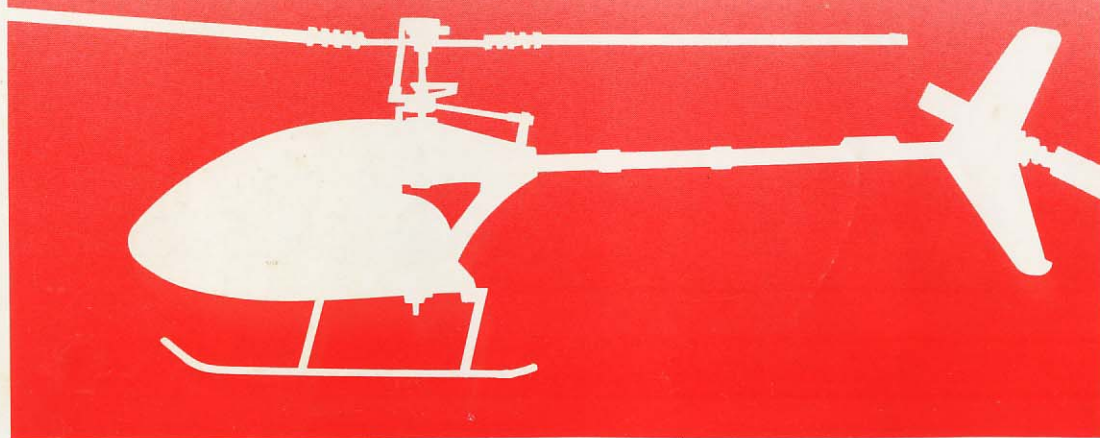
KALT HELICOPTER

# BARON

---

組立説明書

---



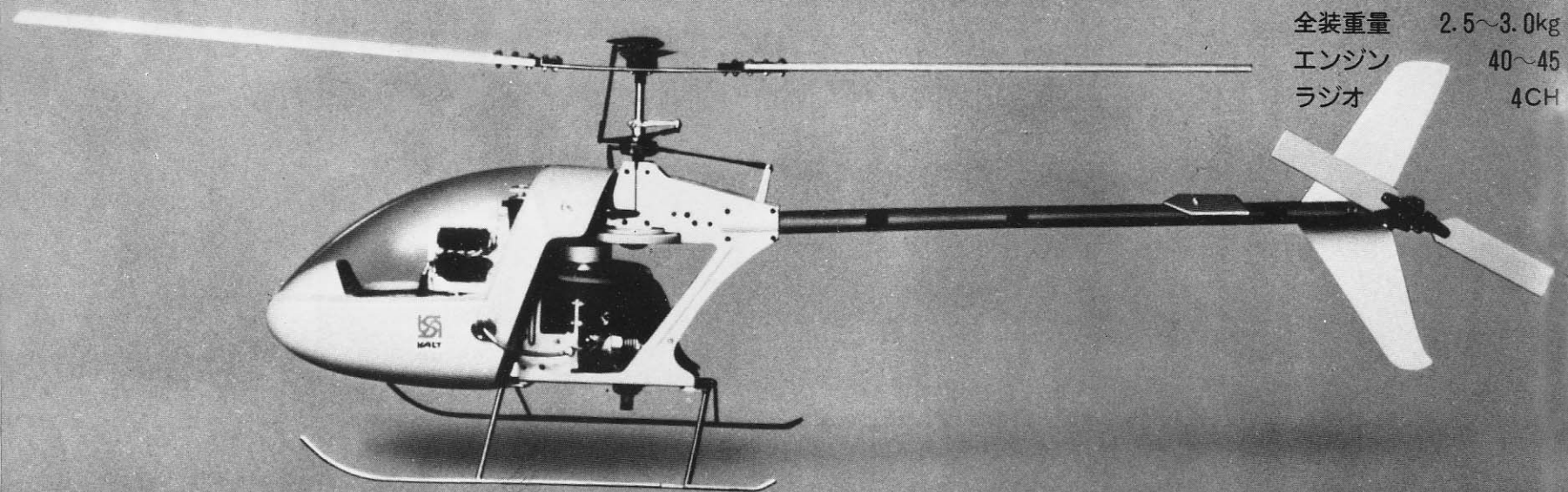
KALT SANGYO CO., LTD

飛行機と同じ様にとばせます。

# カルト バロン

ヘリコプターのパイオニア・カルトは、どなたにも手軽にとばせるヘリの開発に情熱を傾けて、研究を重ねてきました。その成果が、ここにお届けする、カルトバロンです。固定翼機と同等の操縦技術でヘリの飛行が楽しめる——その夢が、いま実現しました。カルトバロンは、初心者の方にまさに最適、もちろんベテランにも十分満足していただける飛行性能を秘めています。カルトバロンは、巾広いヘリファンの期待にこたえる、万能タイプのヘリコプターです。

ローター直径	1200mm
機体全長	1115mm
全装重量	2.5~3.0kg
エンジン	40~45
ラジオ	4CH



# **KALT** **HELICOPTER** **BARON**

## ごあいさつ

このたび、カルトのヘリコプターをお求めいただきまして、誠にありがとうございました。

ヘリコプターの正確な組立て、並びに安全飛行を行うため、組立てにとりかかる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。各部品、製作順序など、充分ご理解のうえ始められるよう、お願い申し上げます。

## CONTENTS

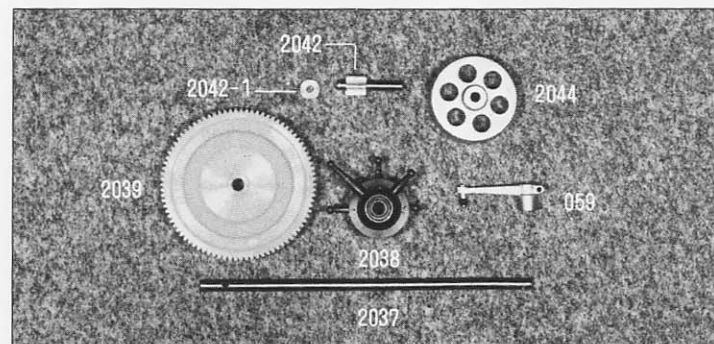
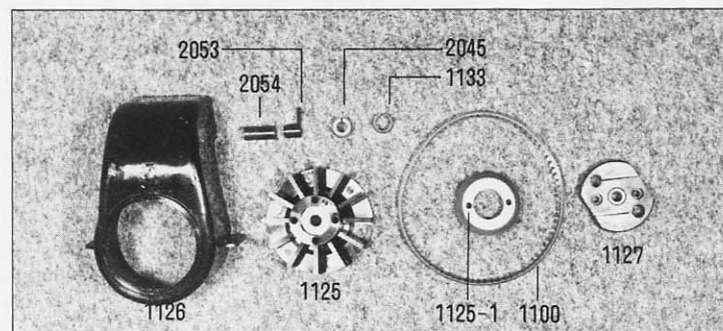
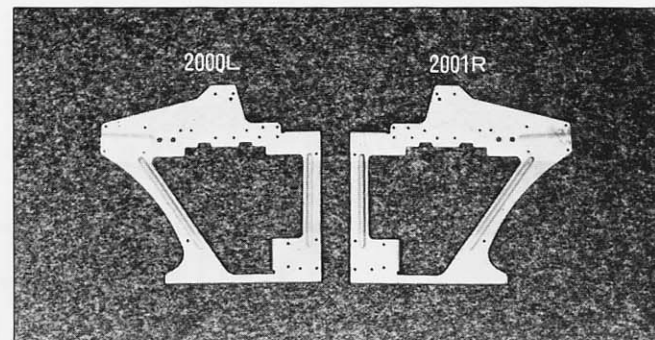
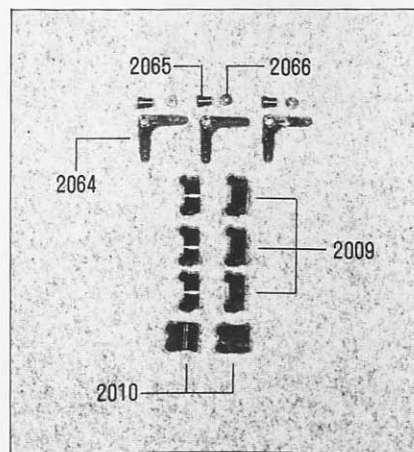
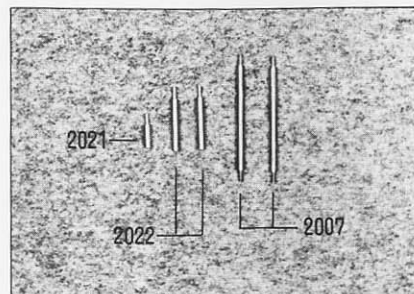
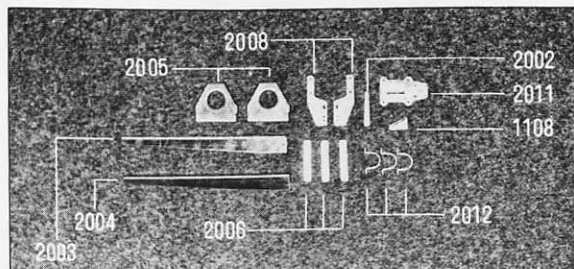
A. キット内容	2・3
B. 組立て方	4
動力部の組立て	4・5
メインフレームの組み立て	5・6
ギヤの組込み	6・9
ボディマウントの準備	9
サーボのマウント	10
テイル・ギヤボックスの組立て	11・12
テイル・ドライブ・シャフトの取付け	12
テイル部の組立て	13・14
エンジン・コントロール	14
ラダー・コントロール	15
エルロン、エレベーター	15・16
受信機と電池の取付け	16
脚の組立て	16
ボディの組立て	17
メインローター部の組立て	18
重心の調整	18
C. パーツリスト	19・20
D. ボルトセット・リスト	20
E. 最終点検	21

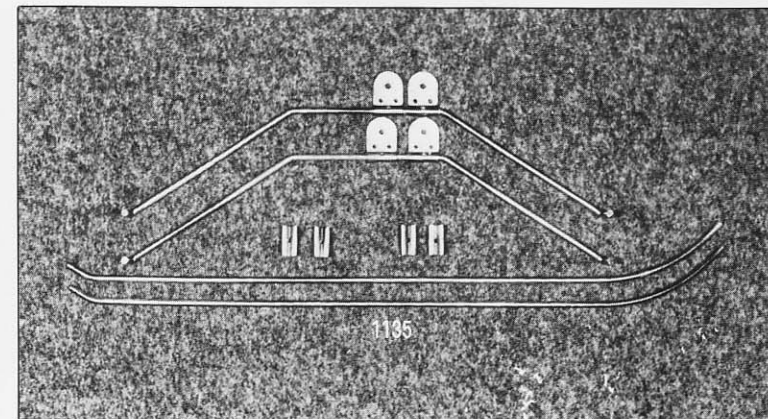
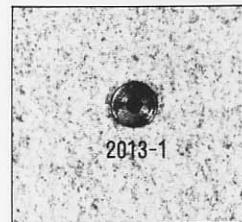
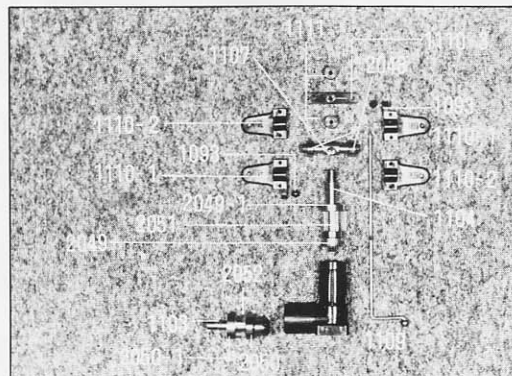
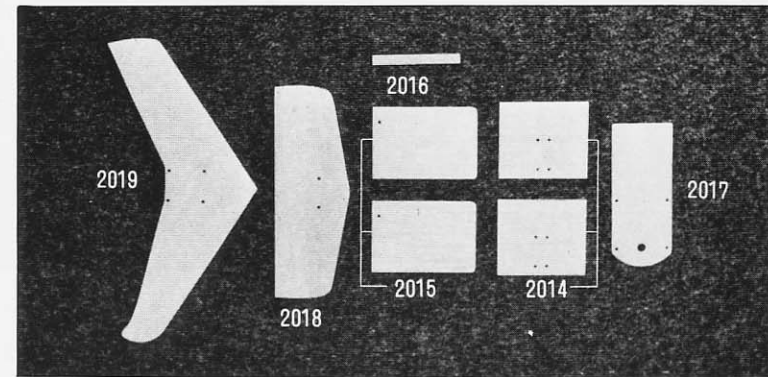
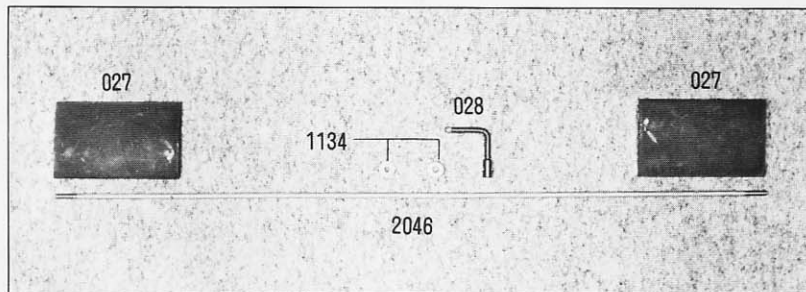
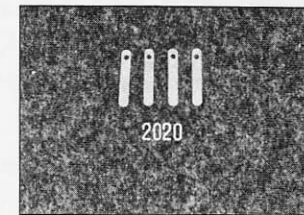
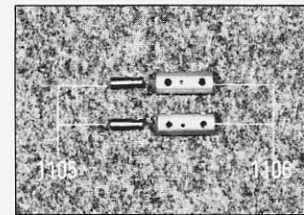
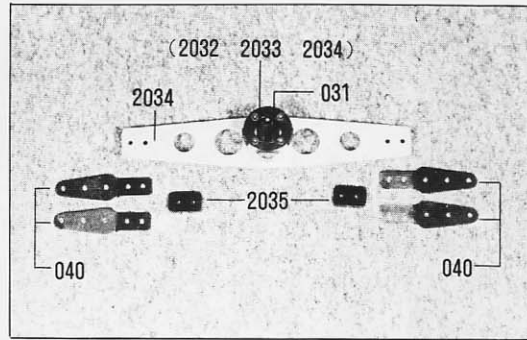
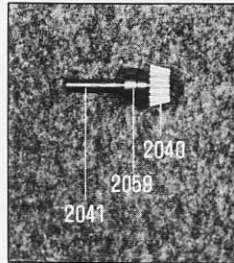


本キットには右の部品が揃っています。組立てる前によく確認してください。

P 20のパーツリストで、部品No.及び呼称と数量が照合できます。なお、後出のボルトセット・リストもよくお読みください。

写真には出ていませんが、他に成形済みのFPRボディがセットしてあります。(左右2分割)



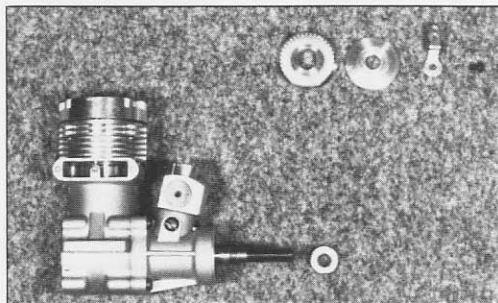


## B. 組立て方

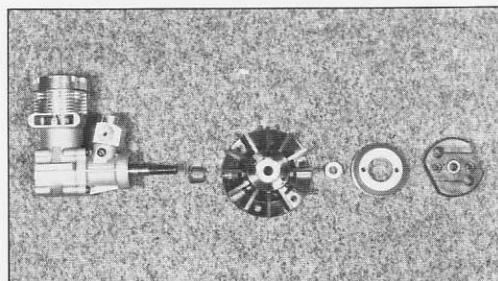
部品の点検が済んだら、いよいよ組立てに入りましょう。各部分を注意深く組んだら、十分に再確認をして次に進んでください。作りやすさも、カルトパロンの特徴の一つです。

### 動力部の組立て

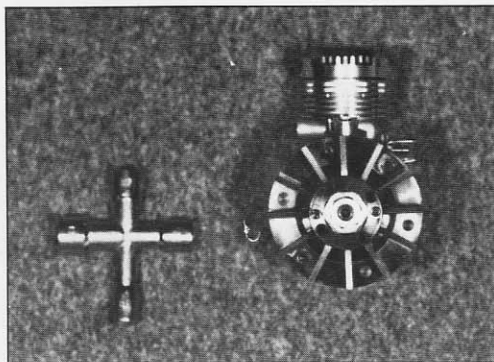
- 1 エンジンのドライブワッシャー及び、スロットルレバーを外します。



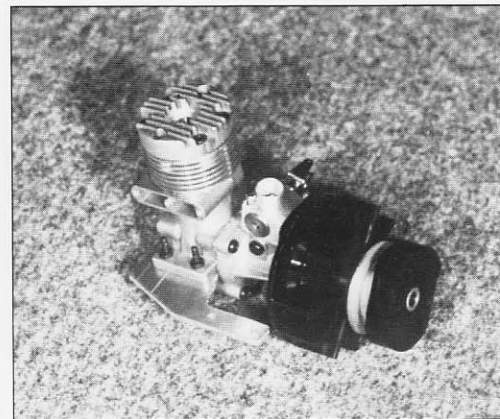
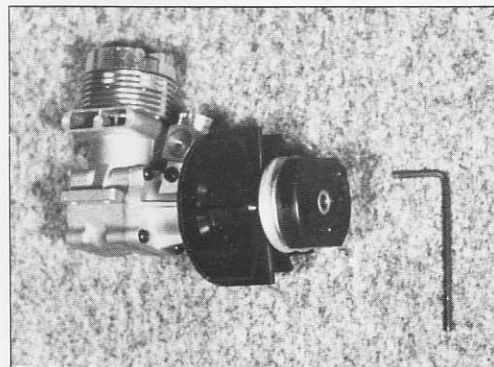
- 2 写真の順にしたがって、テーパースペーサー、クーリングファン、プーリー、クラッチを取付けます。



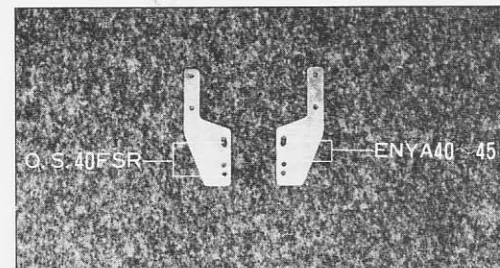
- 3 テーパースペーサーをプロペラシャフトに差し込み、クーリングファンを入れ、プロペラナットを十字レンチで十分に締付けます。



- 4 プーリーとクラッチをクーリングファンに取付け、キャップボルトM4×25で交互にゆっくり締付けてゆきます。  
(キャップボルト M4×25:2)



- 5 エンジンにマウンティングプレートキャップボルト M3×18、M3黒ナットで仮付けします。(キャップボルト M3×18:4、黒ナット M3:4)

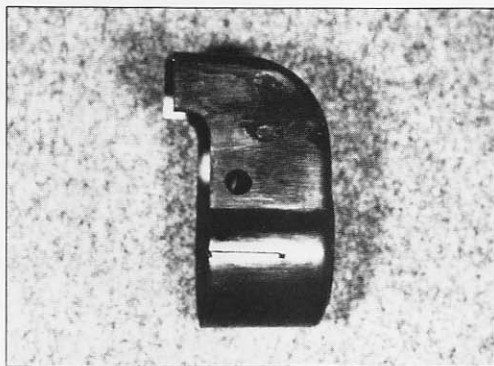


- 6 エンジン取付穴 エンヤ40、45 内側  
O.S. 40FSR 外側

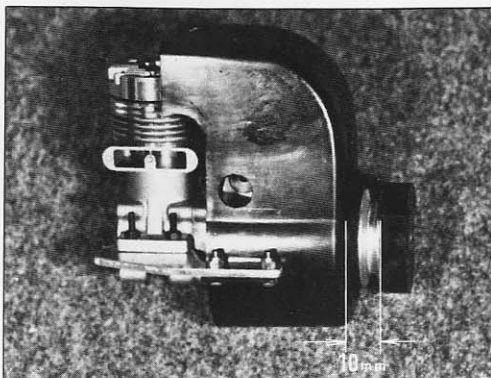
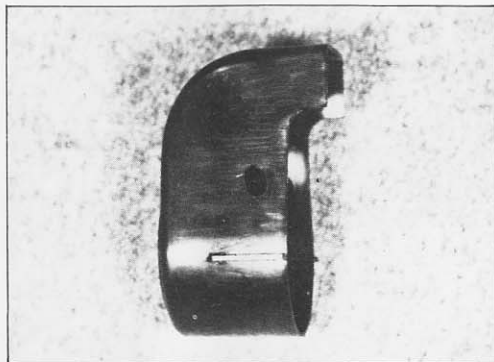
7 クーリングカバーに、マウンティングプレートをはせて取付孔を開けてください。

【注】クーリングカバーの面とブリーのクラッチ取付面までの距離を10%になるようにする。

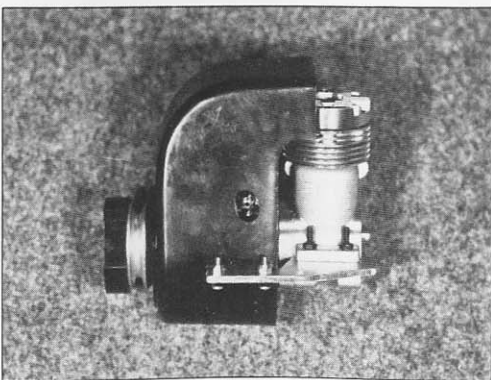
次にスロットルレバー用孔10φを開けます。



8 反対側にニードル用孔を開けます。



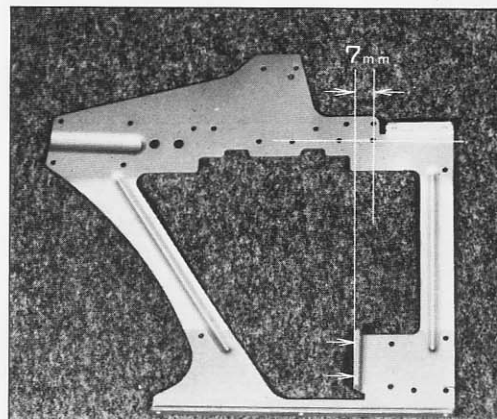
9 マウンティングプレートに、クーリングカバーをプラスボルト M3×12、プレートワッシャー、ナイロンナットで取付けます。  
(プラスボルト M3×12:4、プレートワッシャー:4、ナイロンナット:4)



10 マウンティングプレートに仮付けしたエンジンを外してください。

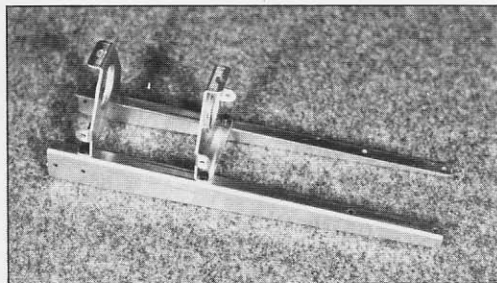
## メインフレームの組立て

11 メインフレーム裏側のピニオン・ギヤ・シャフト取付孔の前方孔中心より7%の所に印を付けて下さい。次にエンジン取付面に定規を当て、先に印を付けた位置に正しく合うかどうか確かめます。合っていない場合は、ヤスリで取付面を修正します。

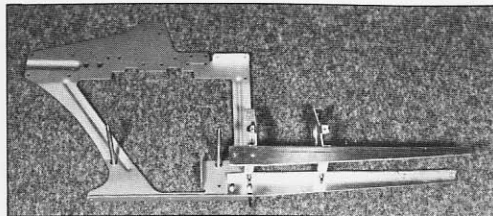
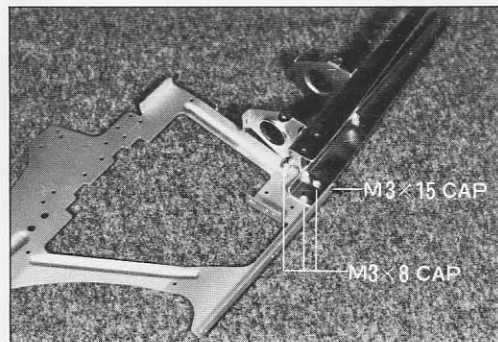


12 サブフレーム、サーボリターナー(2ヶ)を組立てます。左右いずれかのサブフレームに両サーボリターナーを取付け、もう一方のサブフレームを取付けてください。サブフレームの外側寸法は62%です。(キャップボルト M3×8:4、ナイロンナット:4)  
この時、全体の構造は平行、直角でなければなりません。

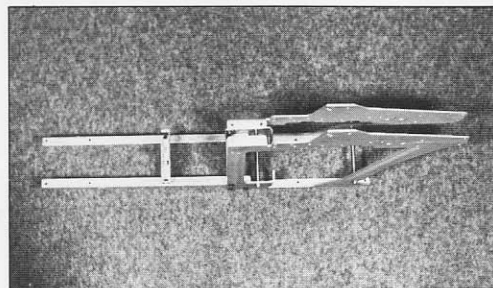




13左メインフレームの底面前方の孔にキャップボルト M3×15を入れ、それからサブフレームをキャップボルト M3×8、ナイロンナットで取付けます。メインフレームとサブフレームは必ず直交させてください。サーボリテーナーもメインフレームにキャップボルト M3×8、ナイロンナットで取付けます。(キャップボルト M3×15:1、M3×8:3、ナイロンナット:3)



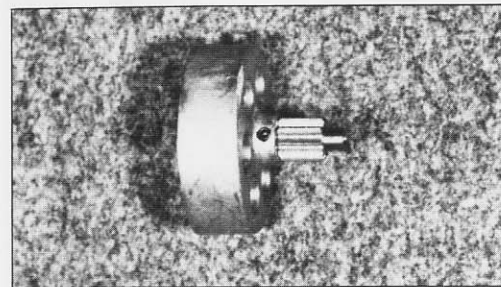
14クロスメンバーB(2本)を、内側にプレートワッシャーを入れて、外側よりナイロンナットで取付けます。  
(プレートワッシャー:2、ナイロンナット:2)



15右メインフレームも同じく底面前方孔にキャップボルト M3×15を入れ、前(No13)と同じ様に仮付けします。  
(キャップボルト M3×15:1、M3×8:3、ナイロンナット:5、プレートワッシャー:2)

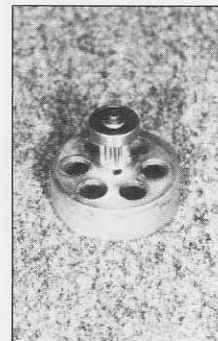
## ギヤの組込み

16ピニオン・ギヤ・シャフトにクラッチベルをセットスクリュー M4×4で取付けます。  
(セットスクリュー M4×4:2)



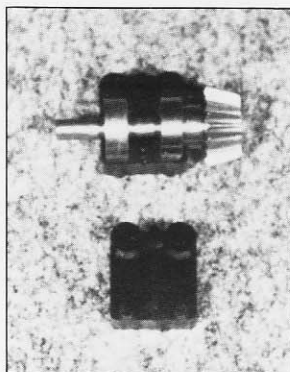
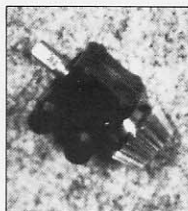
17ピニオン・ギヤ・シャフトにベアリング626 DDを入れ、M3(外径10%)のワッシャーを介してキャップボルト M3×8で締付けたのち、ベアリングケースAに入れて接合します。

(キャップボルト M3×8:1)

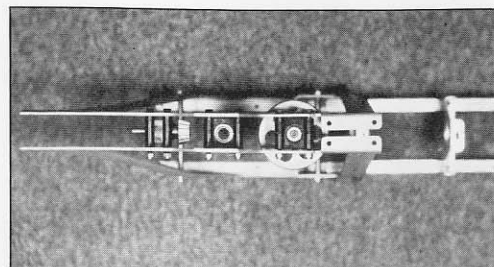




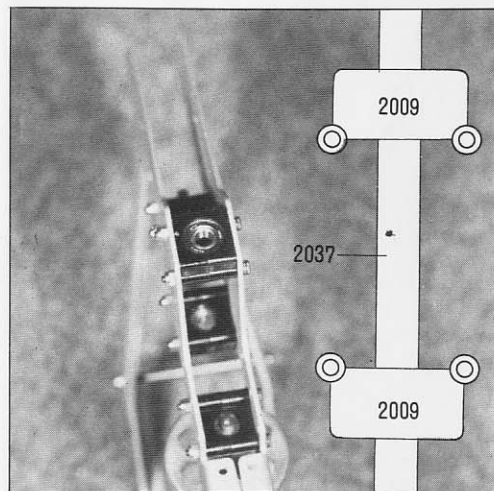
- 18 ベベルピニオン・シャフトに真鍮のブッシュ  
(外径14mm、内径5mm)を挿入し、ベアリング  
ケース(左右)を接合します。



- 19 ベアリングケースA(4ヶ)に真鍮ブッシュ  
(外径19mm、内径7mm)を入れ、接合します。

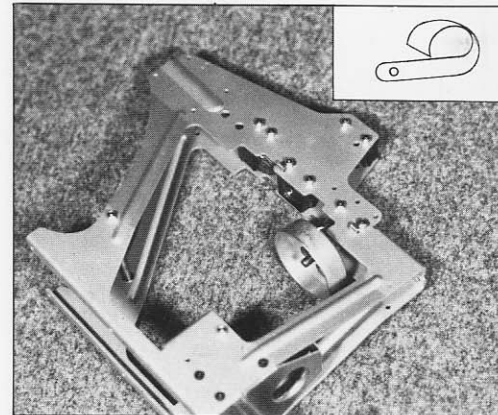


- 20 それぞれのベアリングケースを所定の位置  
に固定します。

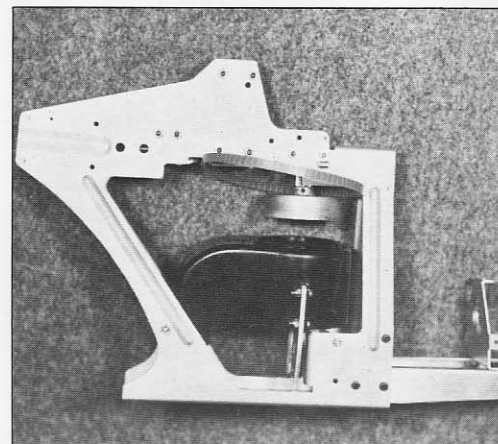


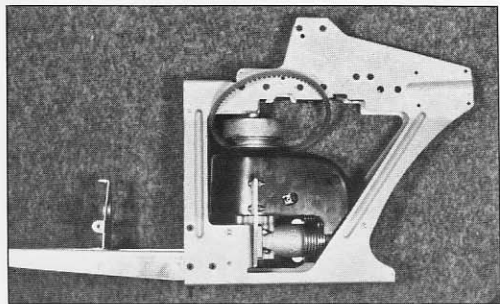
- 21 真鍮(Na19)を入れたベアリングケースは、  
上下が反対になるように取付けてください。

- 22 ベアリングケースを取付ける際、PCワイヤ  
ーブラケットも写真のように加工してくだ  
さい。



- 23 ワーリングカバーをメインフレーム間に挿  
入し、ベルトを入れます。



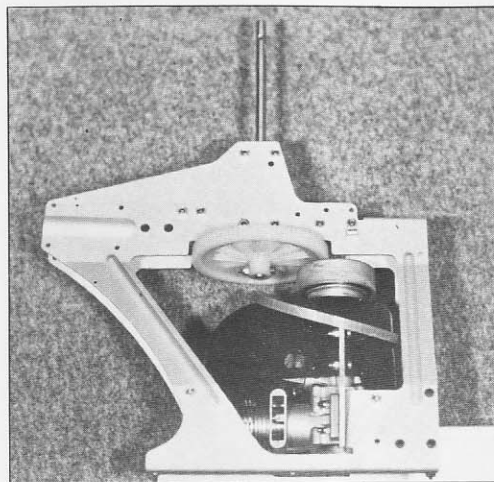


24 ウーリングカバーをクラッチベルの上部まで入れ、エンジン・アッセンブリの後部よりメインフレーム間に挿入します。メインシャフトにクラッチプッシュを合せ、ウーリングカバー内に入れてください。

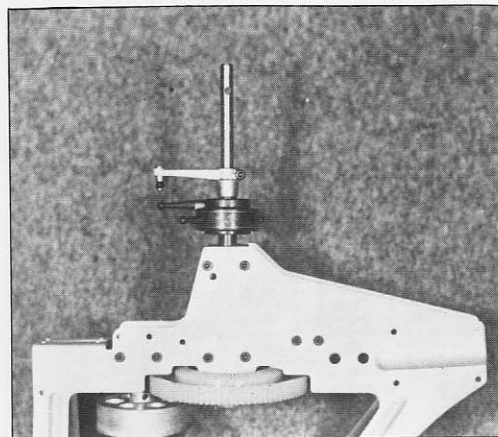


25 エンジン、マウンティングプレート、メインフレームの順に、プレートワッシャーを介

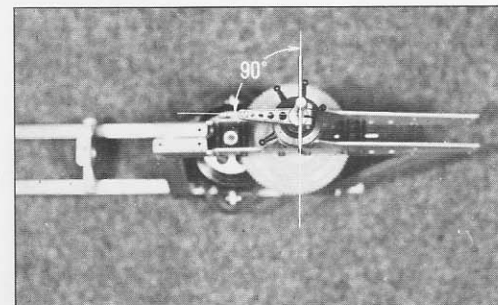
してキャップボルト M3×18 とナイロンナットで取付けます。その時、クラッチベルとクラッチ取付ブーリー面の平行を確認してください。(キャップボルト M3×18:4、プレートワッシャー:4、ナイロンナット:4)



26 ピニオン・ギヤとロータードライブ・ギヤを噛合せ、マストを差し込み、キャップボルト M3×20、ナイロンナットで取付けます。(キャップボルト M3×20:1、ナイロンナット:1)

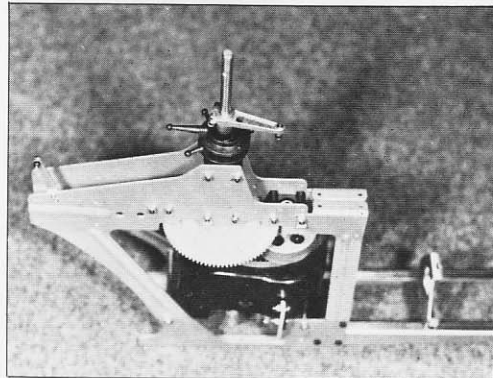


27 マストにスワッシュプレートを入れ、アッパープレートロックで固定します。(キャップボルト M3×15:1、ナイロンナット:1)



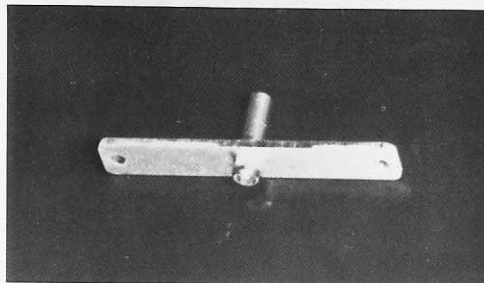
28 アッパープレートロックでスワッシュプレートが上下方向にゆるみのないように固定してください。マスト上端の孔と直角になるよう注意しましょう。

- 29 ラジヤス・サポートにプラスチックのボールを取付け、メインフレームに固定します。  
(プラスボルト M2×10:3、M2ナット:3)

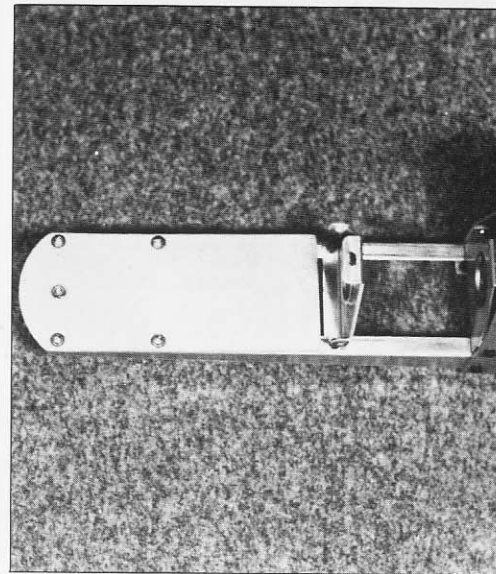
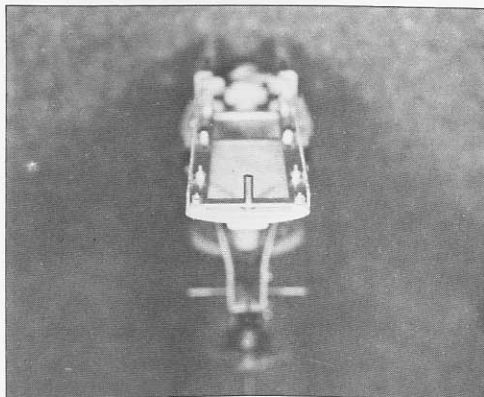


## ボディマウントの準備

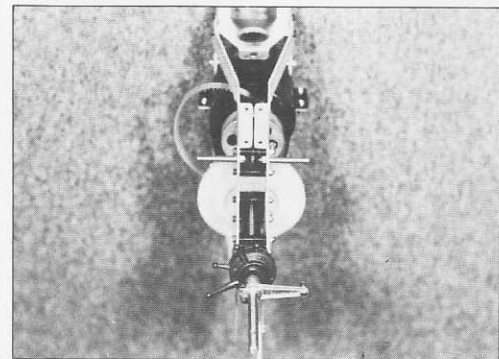
- 30 クロスメンバー A にボディマウンティングボルト (F) をナイロンナットで固定します。



- 31 フロントベッド及びクロスメンバー A を、サブフレームにプラスボルト M3×12、プレートワッシャー、ナイロンナットで固定します。(プラスボルト M3×12:4、プレートワッシャー:4、ナイロンナット:4)



- 32 上から見たところ。



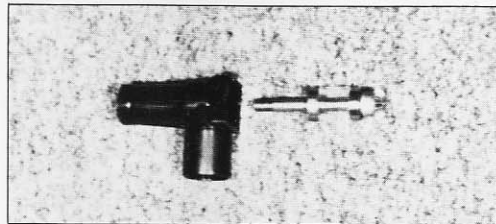
- 33 ボディマウンティングボルト (R) (2ヶ) をナイロンナットで固定します。



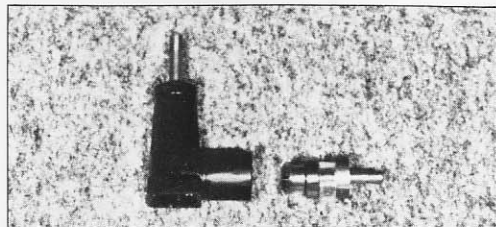


## テイルギヤボックスの組立て

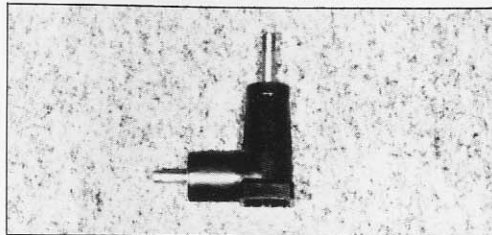
39 テイル・アウトプット・アッセンブリをテイル・ギヤケースのキャップ側より挿入します。



40 テイル・インプット・シャフトをテイル・ギヤ・ケースの上部より途中まで差込み、先に挿入済のテイル・アウトプット・アッセンブリのベベルギヤと歯の噛み合せを確認してから、最後まで挿入します。



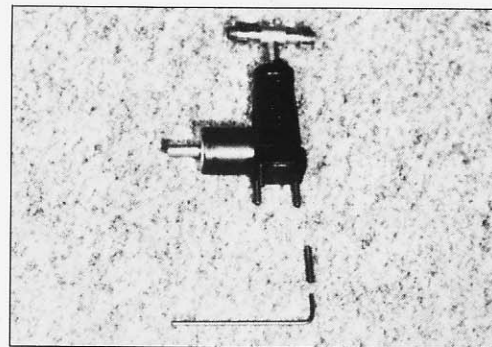
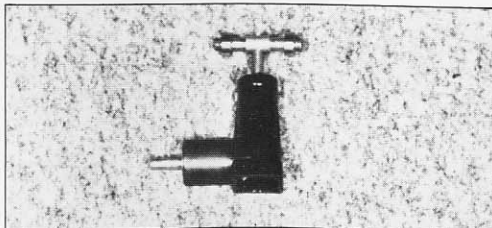
41 適正噛合せ位置が決まったら、真鍮ブッシュとギヤケースの間に瞬間接着剤を少量流し、完全に接着するまで置きます。



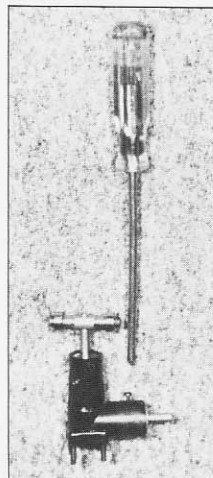
【注】ギヤの噛合せの調整は、インプット・シャフトとテイルアウトプット・シャフトを交互に移動させて行います。まず、噛合せを最初固くし、極くわずかづつ戻して行ってください。シャフトの回転がもっとも軽くなったところが、適正噛合い位置です。噛合せ(バックラッシュ)は、きつ過ぎるとシャフトの回転が固くなり、同時にギヤ歯面の潤滑が悪くなります。また、ゆる過ぎると歯面の磨耗の原因となります。

42 テイルローター・ハブをテイル・アウト・プットシャフトに固く締め付け、瞬間接着剤で固定します。

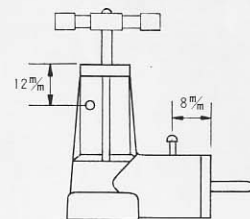
【注】左ネジですから注意してください。

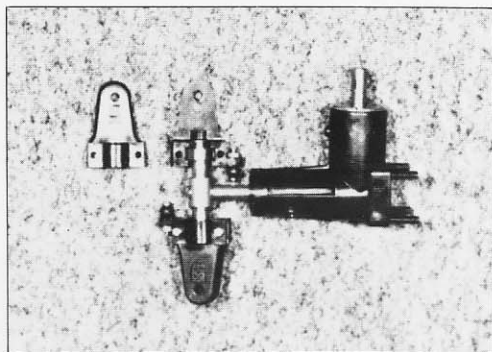


43 テイルギヤケースのキャップ側よりグリースを十分に詰め、キャップをかぶせます。次にギヤケース取付用孔にセットスクリュー M3×12 をねじ込み、瞬間接着剤で固定してください。

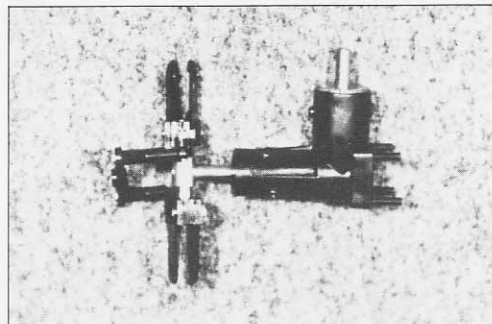


44 写真で示した位置に 2φ のドリルで孔をあけ、タッピングボルトで固定します。

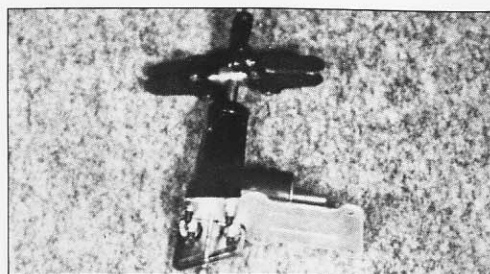




- 45 ピッチハウジングはテイルローター・ハブの真鍮 プッシュをはさんでプラスボルト M2×10、M2 ナットで締付け、片側に突出したアームにプラスチックのボールをプラスボルト M2×10、M2 ナットで取付けます。  
(プラスボルト M2×10:6、M2 ナット:6)



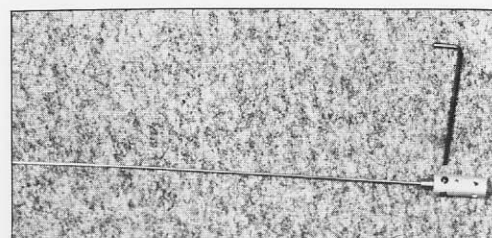
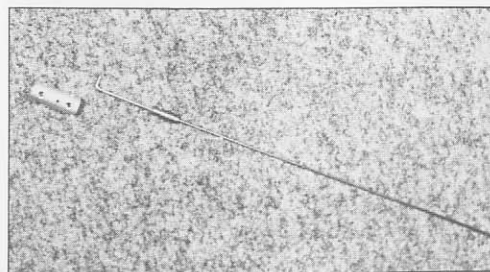
- 46 PC プレートにユニバーサル・リンクをプラスボルト M2.3×8 で取付け、ピッチハウジング側のボールに連結します。  
(プラスボルト M2.3×8:2)



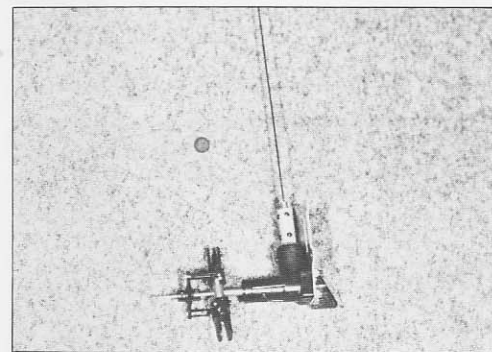
- 47 写真のように、テイル・ブラケット、PC ガイド、PC レバーを組合せ、ナイロンナットで固定します。  
(ナイロンナット:4)

## テイル・ドライブ・シャフトの取付け

- 48 ピアノ線にジョイントスパーサーを入れ、線端より5%の位置で90°にRをつけて曲げます。



- 49 ジョイントの2φの孔にピアノ線の曲げた方を入れ、ジョイントスパーサーを押し込み、セットスクリュー M4×4 で固定します。  
(セットスクリュー M4×4:2)

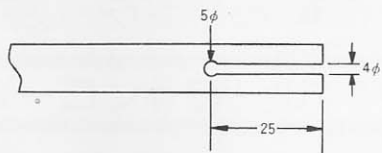
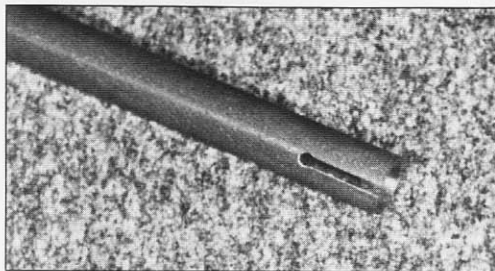


- 50 ピアノ線をテイルギヤボックスにセットスクリュー M4×4 で取付けたら、PC プレートをPC レバーに差し込みます。このとき、その両面にストッパーを入れて、PC レバーが斜溝にそって動くと PC プレートも一緒に回転できるよう、わずかにゆるくしておく必要があります。  
(セットスクリュー M4×4:2)

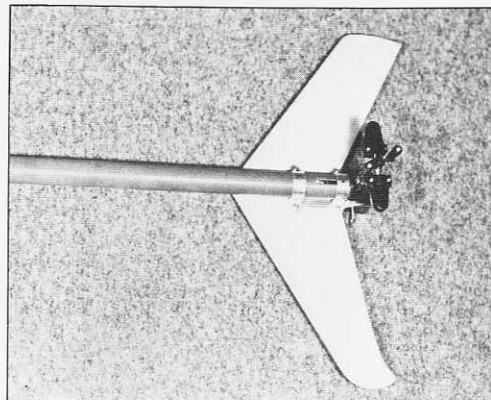
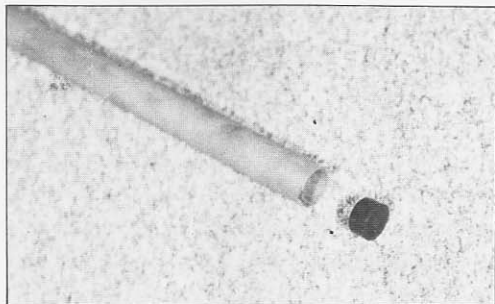


## テイル部の組立て

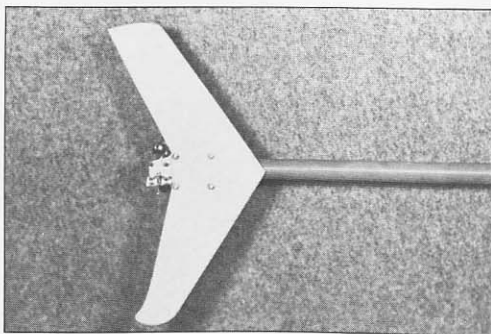
51 グラスパイプを写真の様に加工します。



52 グラスパイプにテイル・ドライブ・シャフトガイドを止まるまで挿入し、瞬間接着剤で止めます。

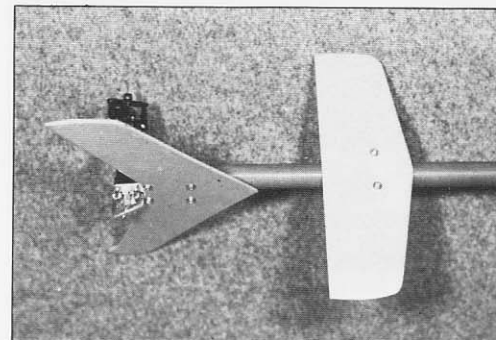


53 テイルギヤボックスをガラスパイプに差し込み、垂直安定板をテイルクランプで取付けます。(プラスボルト M3×12:2、プレートワッシャー:2、ナイロンナット:2)

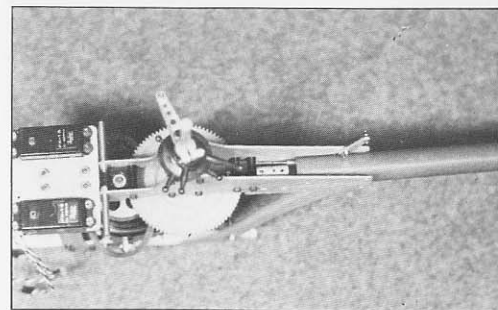


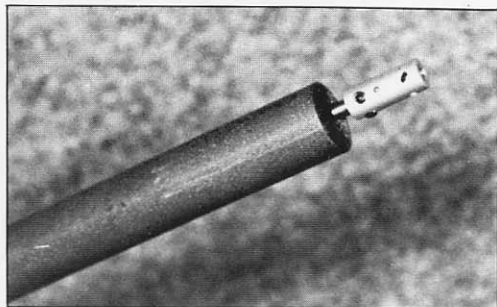
54 反対側から見たところ。

55 水平安定板をテイルクランプで取付けます。この時、ワイヤーブラケットも一緒に取付けておきます。(プラスボルト M3×12:2、プレートワッシャー:2、ナイロンナット:2)

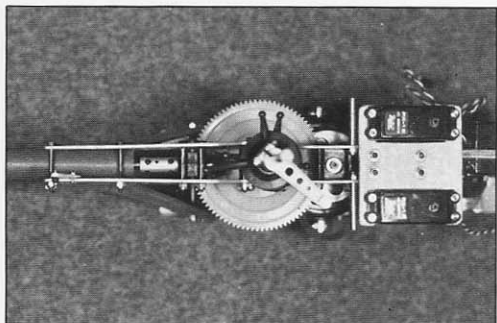


56 ベベル・ピニオン・シャフトにジョイントを仮付けし、ピアノ線にジョイントスペーサーを入れます。次に、ガラスパイプをメインフレームに差し込み、ピアノ線の曲げる位置に印を付け、90°に曲げてください。その曲げた個所より5%のところで切断します。



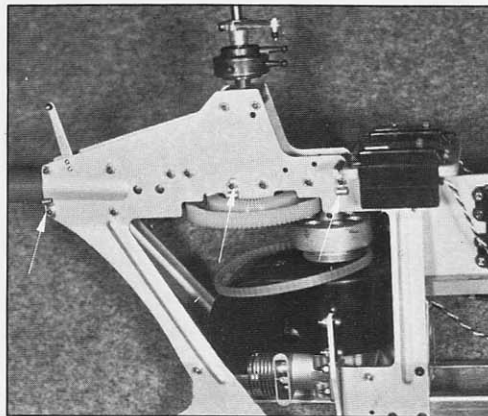


57ベベル・ピニオン・シャフトに仮付けしたジョイントをはずし、前(48)と同様にピアノ線に固定します。  
(セットスクリュー M4×4:2)



58組み上ったテール部をメインフレームにキャップボルト M3×30、ナイロンナットで取付けます。(キャップボルト 3×30:4、ナイロンナット:4)

59その際、PCワイヤー用ブラケットも加工して取り付けておきます。ジョイントもベベル・ピニオン・シャフトにセットスクリュー M4×4で固定します。  
(セットスクリュー M4×4:2)

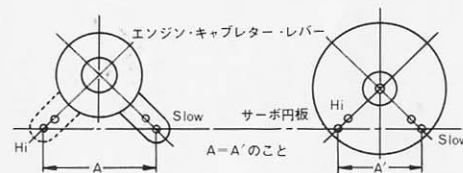


## エンジン・コントロール

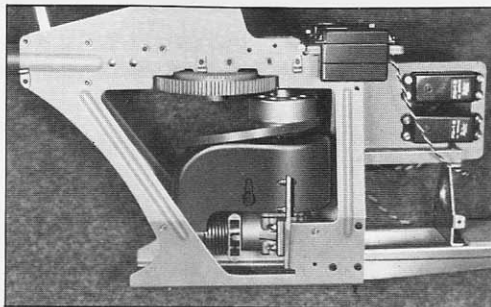


60スロットルレバーを写真のようにキャップボルト M3×25でスプリングワッシャーを介して取付けます。

- エンヤ…… JISボルト
- O. S. …… ISOボルト

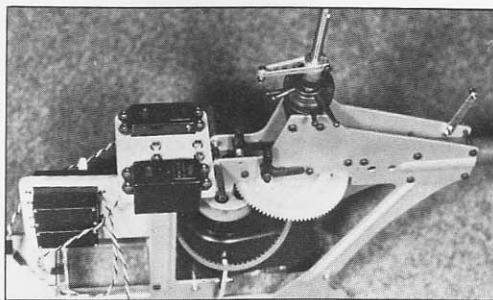


【注】エンジン・コントロールは一般RC機と同様ですが、キャブレターのドラム全開位置が見えないため、全開にならない場合があります。必ず全開、全閉のストローク幅を確認し、エンジン・コントロールの操作時、レバーが同じストローク幅となるように調整してから、充分注意してサーボへのリンケージを行って下さい。



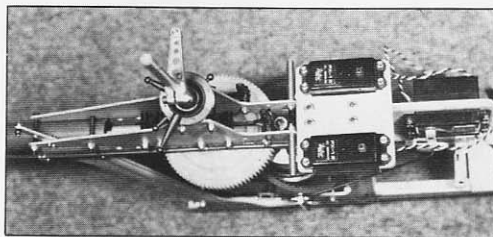
- 61 スロットルレバーの位置を、写真の様にリンクageが楽に出来る位置に固定します。リンクageはロッド棒でクイックリンク(別売)などを使って行ってください。

## ラダーコントロール

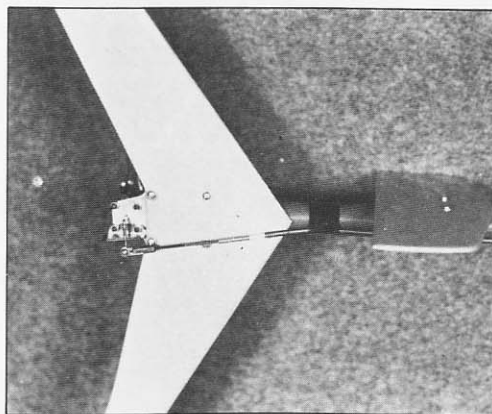


- 62 ベルクランク(2ヶ)を写真のようにキャップボルト M3×18、プレートワッシャー、ナイロンナットで取付けます。  
(キャップボルト M3×18:2、プレートワッシャー:2、ナイロンナット:2)

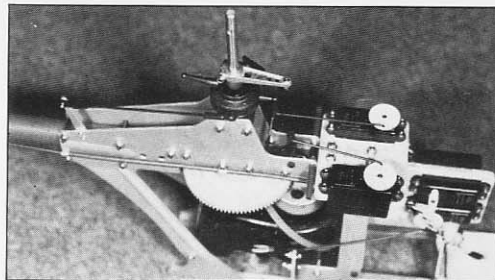
- 63 PCワイヤーを前に取付けておいたPCワイヤーブラケットに通し、テイルリンクageしてください。



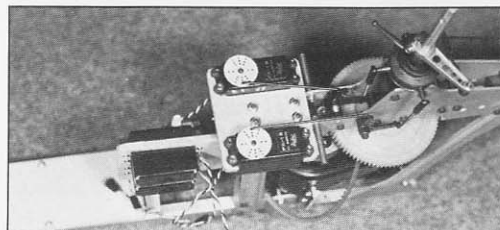
- 64 テイルローターのピッチの変化する範囲は、ラダースティック左一杯のとき、プレートが0度またはいくらかマイナス気味になるようにPCレバー、ストッパーで調整します。PCレバーがPCガイドの溝に対してスムーズに動いているかどうかを確認し、摺動面にグリースをわずかに塗っておきます。



## エルロン、エレベーター

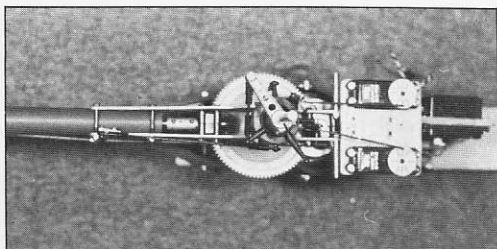


- 65 スワッシュプレートの下側の円板から出ている2本の長いアームは、エルロンが左側、エレベーターが前方です。短いアームはラジマスアームで、ラジマスサポートのボールに固定してスワッシュプレートの下側が回転ないようにします。



- 66 スワッシュプレート、ベルクランク間のリンクageは、ロッド棒のネジの切っただけの部分を使用し、ベルクランク、サーボ間には残りのネジの切っていない部分のロッド棒を使って行います。





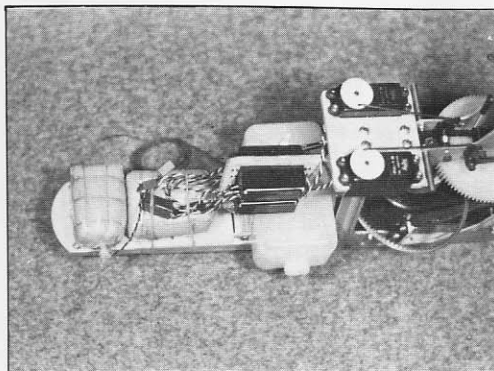
67 スワッシュプレートの上側の円板から出ている短いアームとアッパープレートロックを、アッパープレートリンクで連結します。同じく上側の円板から出ている長いアームとアッパープレートロックが一直線になるように、リンクの長さを調整します。

**[注]** エルロンの動きは、機体後方より見て送信機のスティックが左のときスワッシュプレートも左に傾くようにします。エレベーターはエレベーター・スティックがアップでスワッシュプレートが前上りになるようにします。各サーボがニュートラル位置ならば、スワッシュプレートはマストに対して直角、またはやや前下り ( $0.5^\circ \sim 1^\circ$ ) になるように調整してください。

その際、エルロン・エレベーターとも、スワッシュプレートから出ているコントロールアームの振幅が最大限  $12\%$  (上下各  $6\%$ ) となるよう、サーボへのリンクージで調節してください。

正式には、エルロンのことをラテラル・サイクリック・コントロール、エレベーターをフォーアウト・サイクリック・コントロールといいます。

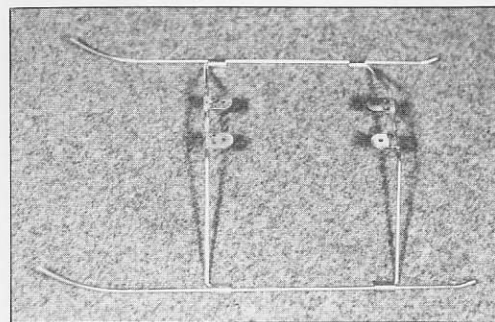
## 受信機と電池の取付け



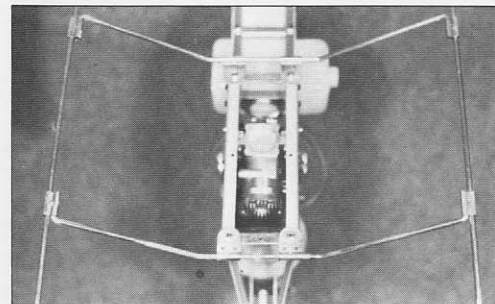
68 受信機および電池は、ゴムバンドまたは両面テープなどで固定します。

## 脚の組立て

69 ピアノ線の脚を写真のように機体の寸法に合わせてハンダソケし、組立てます。



70 出来上った脚を、機体にナイロンナットで取付けてください。  
(ナイロンナット: 4)



## ボディの組立て

71左右に分れているボディを組合せ、セロテープで仮止めします。次に細筆などに液体接着剤をつけ、重ね合わせ部分を貼り合せてください。この接着剤は速乾性ですので、1分位でテープをはずせます。突合せ部分は内側に10%巾のプラスチック板を重ねてください。キャノピーはタッピングボルトで取付けます。

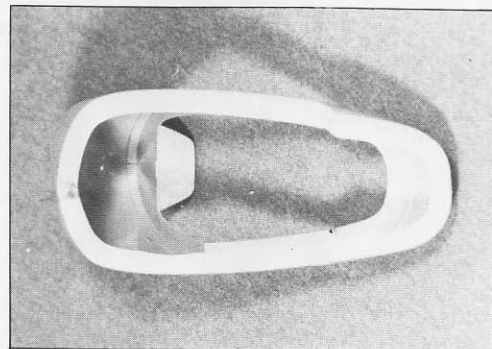
【注】この接着剤は火気厳禁です。また揮発性が高いので、使用後はきつくフタを閉めてください。

重ね合わせ部分の接着

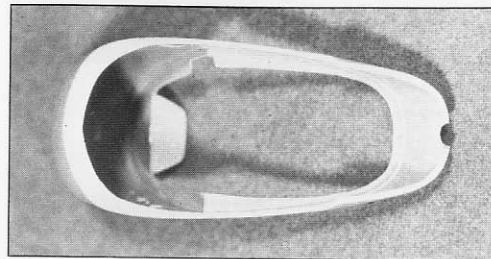
突き合わせ部分の接着

10%巾プラスチック板

72後部から見たところ。

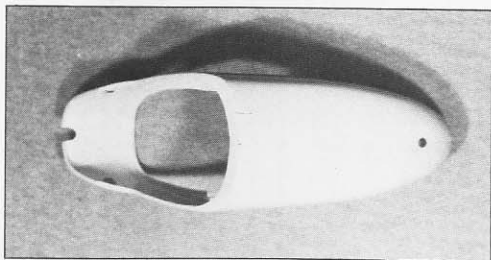


73出来上ったボディを機体に合せて写真のように切ってください。

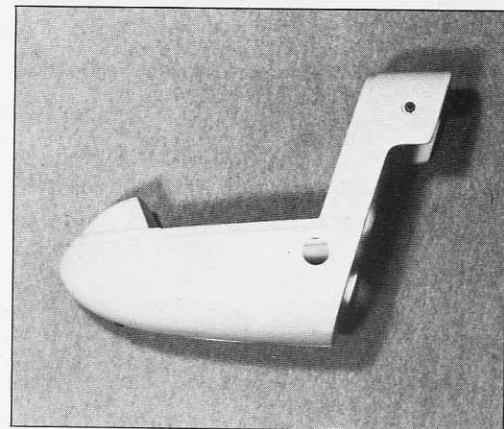
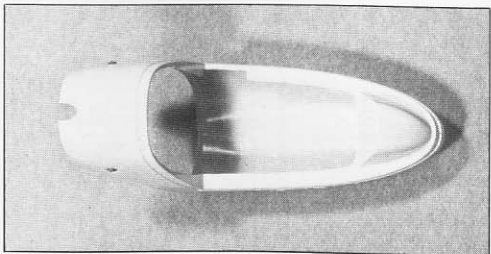


74ボディ取付用孔にはグラメットを入れ、内側にプレートワッシャーを瞬間接着剤で固定します。

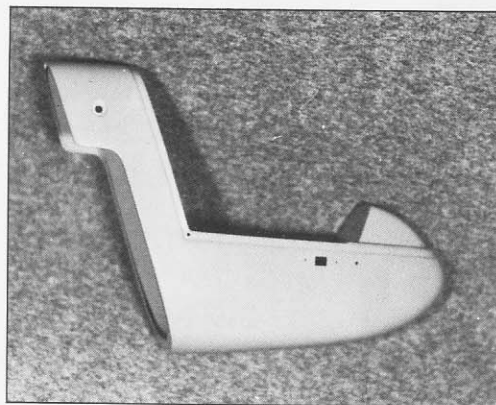
(グラメット:3、プレートワッシャー:3)



75上部から見たところ。



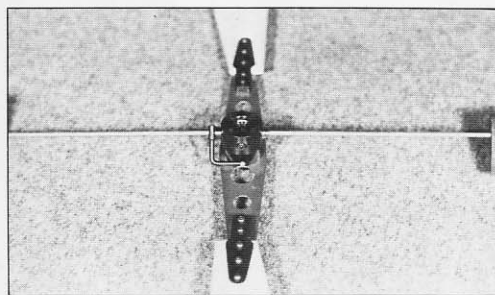
76燃料タンクの孔を開けます。



77スイッチ用孔を開けます。ボディの組付けは、キャップボルト M3×12でプレートワッシャーを介して行います。キャノピーにタッピングボルト 3ヶで取付けます。  
(キャップボルト M3×12:3、プレートワッシャー:3、タッピングボルト:3)

## メインローター部の組立て

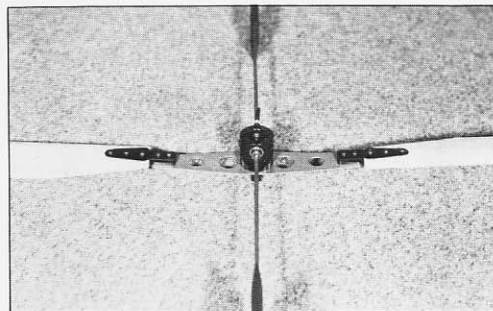
【注】ジンバルリング部は仮組みしてありますので、各ボルトを締め直してください。締め直し後、各可動部分は軽く動かなければなりません。



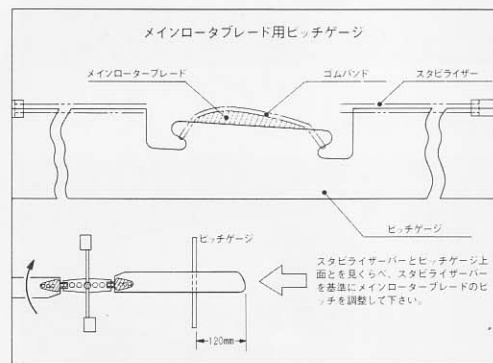
78 スタビライザー・バーの片側にスタビライザーブレードを差し込み、コントロールレバー、スタビライザー・ストッパーを入れ、ジンバルリングに取付けます。反対側からストッパーを入れて、スタビライザーブレードを固定します。このバーは正しく左右のバランスを調整し、ストッパーとコントロールレバーをセットスクリューで締付け、固定します。

(セットスクリュー M4:1、M3:2)

【注】コントロールレバーは、左右スタビライザー・ブレードの翼弦と同心になるように、特に注意してください。



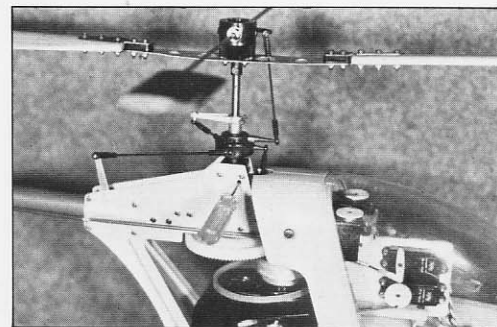
79 ブレードホルダーをハブプレートにハブスペーサーを介して取付けます。左右ブレードの重量/バランスの調整は、軽い方の翼端にビニールテープを巻き、完全なものとします。スワッシュプレートの上側の円板から出ている長いアームは、コントロールレバーとコントロールロッドで連結します。スタビライザー・ブレードが、スワッシュプレートと完全に平行になるようにロッドで調整します。



80 スワッシュプレートの上側の円板から出ている長いアームは、コントロールレバーとコントロールロッドで連結します。スタビライザーがスワッシュプレートと完全に平行になるように調整します。(写真下)

## 重心の調整

80 重量の調整が大変重要であることは、一般の飛行機の場合以上ですから、充分注意をしなければなりません。本機の場合、重量的にはかなり余裕をもっていますから、機首に鉛などを固定し、バランスを取ることが出来ます。完成後、バランス調整穴にドライバーなどを差込んで持ち上げ、水平かわずかに前下り気味程度とします。



Part No.	Nomenclature	No. Unit	Summary
2000	メイン・フレーム L	1	
2001	" " R	1	
2002	ラジラス・サポート	1	
2003	サブ・フレーム L	1	
2004	" " R	1	
2005	サーボ・プレート・リテーナー	2	
2006	クロス・メンバー A	3	
2007	" " B	2	
2008	マウンティング・プレート	2	
2009	ベアリング・ケース A	6	
2010	" " B	2	
2011	テイル・ブラケット	1	
2012	テイル・クランプ	3	
2013	テイル・グラス・パイプ	1	
2013-1	テイル・ドライブ・シャフト・ガイド	1	
2014	サーボ・マウンティング・プレート A	2	シナ・ベニヤ
2015	" " " B	2	" "
2016	取付角材 (10×10×88)	1	
2017	フロント・ベッ	1	シナ・ベニヤ
2018	水平尾翼	1	" "
2019	垂直尾翼	1	" "
2020	PC ワイヤ・ブラケット	4	
2021	ボディー・マウンティング・ボルト F	1	
2022	" " " R	2	
2023	M3 ピニオン・ワッシャー	1	
019	ラジラス・アーム	2	
021	ロング・ロッド	3	
2026	PC ロッド	2	
2027	M・R・Blade	1 (pr.)	
2028	T・R・Blade	1 (pr.)	
031	ジンバル・ヘッド	1	
2030	ジンバル・ヘッド・ベアリング	2	
2030-1	" " ブッシュ	2	
2031	ヘッド・ハウジング・スベサ	1	

Part No.	Nomenclature	No. Unit	Summary
2032	ヘッド・ハウジング (上)	1	
2033	" " (下)	1	
2034	ハブ・プレート	1	
2035	ハブ・スベサ	2	
040	ブレード・ホルダー	4	
059	アッパー・プレート・ロック	1	
2037	マスト	1	
2038	スワッシュ・プレート	1	
2039	ローター・ドライブ・ギヤ	1	
2040	ベベル・ピニオン・ギヤ	1	
2041	テイル・ドライブ・シャフト	1	
2042	ピニオン・ギヤ・シャフト	1	
1100	ベルト	1	
1102	テイル・ギヤ・ケース	1	
2044	クラッチ・ベル	1	
1125	ブーリー	1	
1125-1	テーパー・スベサ	1	
1126	クーリング・カバー	1	
1127	遠心クラッチ (ナイロン)	1	
1133	テーパー・スベサ	1	エンヤ・OS (SR40)
2045	テーパー・スベサ (オプション)	1	ウエブラ40
2046	スタビライザー・バー	1	
027	" ブレード	2	
028	" コントロール・レバー	1	
1134	" ストッパー	2	
1135	ランディング・脚	1 SET	
1136	ピアノ線	1	
1101	PC ワイヤ・チューブSET	1	
1103	テイル・インプット・シャフト	1	
1104	テイル・アウトプット・シャフト	1	
1105	テイル・ジョイント・スベサ	2	
1106	テイル・ジョイント	2	
1107	テイル・ローター・ハブ	1	



# D. ボルトセット・リスト

Part No.	Nomenclature	No. Unit	Summary
2048	テイル・ベアリング (ブッシュ)	2	(1050相当)
2049	R-1350	1	
2049-1	ブッシュ (R-1350相当)	1	
2050	R-1650	1	
2050-1	ブッシュ (R-1650相当)	1	
2051	ベアリング・スベーサー (A)	1	
2052	" " (B)	1	
1108	PC ガイド	1	
1109	PC レバー	1	
1110	PCハウジング SET { 1110-1 PCハウジング A	2	
	1110-2 PCハウジング B	2	
	1110-3 PCプレート	1	
1111	PC ストッパー	2	
2053	スロットル・レバー	1	
2054	" " ・スベーサー	1	
2055	テイル・ベベル・ギヤ	1	
2056	テイル・ベベル・ピニオン・ギヤ	1	
1093	ジョイント・ボール	4	
1094	ユニバーサル・リンク	11	
2057	626DD	1	
2058	ブッシュ (607相当)	2	
2059	605ZZ	1	
2059-1	ブッシュ (605ZZ相当)	1	
2060	ラバー・グロメット	3	
2061	BARON ボディー L	1	
2061-1	" " R	1	
2062	BARON キャノピー	1	
2063	ピッチ・ゲージ	1	
2064	ベルク・ランク	3	
2065	" " ・スベーサー	3	
2066	" " ・ワッシャー	3	
2067	燃料タンク	1	
2068	組立説明書(本書)	1	
2069	完成見取図	1	

No.	Nomenclature	No./Unit
1	M2×10 ⊕ボルト	5
2	M2×12 ⊕ボルト	7
3	M2.3×8 ⊕ボルト	2
4	M2 ナット	12
5	M2.6×12 サーボ・マウンティング・ボルト・ナット	各16
6	M3×8 キャップ・ボルト	13
7	M3×12 " "	12
8	M3×15 " "	16
9	M3×18 " "	8
10	M3×20 " "	1
11	M3×25 JIS キャップ・ボルト、M3、SW、レンチ	各1
12	M3×30	12
13	M3×12 ⊕ボルト	10
14	M3 ナイロン・ナット	74
15	M3 ナット	4
16	M3 平ワッシャー	37
17	M4×25	2
18	M2.3 タッピング・ボルト	6
19	M3×4 セット・スクリュウ	4
20	M3×12 " "	4
21	M4×4 " "	11

●飛行の前後には、必らず各部のボルトナットにゆるみが無いか確認して下さい。特に欠 せないのは、スタビライザー・ストッパー、スタビライザー・コントロール・レバー、それにテイルジョイント部の点検です。

●キャップ・ボルトやセット・スクリューの頭の六角部分がわずかでも丸くなっているようなら、必ず新しいものと交換して下さい。そのまま使用していると、取替えが出来なくなることもあります。実機にあっては、飛行時間によりボルト・ナット類を交換している程ですが、模型の場合はなおさらです。3カ月に一度は、必ずすべてのボルト・ナット類を交換しましょう。それはトラブルを防ぐだけでなく、安心して楽しい安全飛行を行うことに通じます。

★なお、ナット類を締めつけたあとには、必ずゴム系の接着剤を塗付し、ゆるみを防ぎましょう。ナイロン・ナットはその必要はありません。

## お買い上げのお客様へ

本キットの内容、数量につきましては十分検査しておりますが、梱包フィルムを破る前に確認してください。(P2、20、左表参照)

なお、フィルムを破られた場合はお取替えしかねることもございます。あらかじめご諒承ください。

●本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

●お気付きの点がございましたら、お買上店、または弊社までご連絡ください。

## 株式会社 カルト産業

本社 〒107 港区北青山3-5-2(第2 青朋ビル) Tel. 03-405-1685  
サービスセンター 〒116 荒川区西日暮里2-38-1(田中ビル) Tel. 03-801-1249



# 株式会社 カルト産業

本社 〒107 港区北青山3-5-2(第2 青朋ビル) Tel. 03-405-1685  
サービスセンター 〒116 荒川区西日暮里2-38-1(田中ビル) Tel. 03-801-1249

# 組立説明書の補足及び仕様変更

カルトバロンをお求めいただき、ありがとうございます。

本キットは発売以来各部に改良を加え、より一層高性能で充実した内容となっておりますが、その為組立てやパーツ内容が付属の組立説明書と異なる部分がありますので、組立ての前に説明書と合わせて本書をお読み下さるよう、お願い申し上げます。

## ●パーツ内容の変更

2頁 ○2064～6のベルクランクは、写真では3組になっておりますが2組の誤りです。

○2045及び1133のテーパースペーサーは1125のクーリングファンの設計変更の為、不要になっております。

○2007のクロスメンバーBは設計変更になっております。

○059のアッパープレートロックはプラスチック製（黒色）になっております。

3頁 028のコントロールレバーはアルミダイキャスト製になっております。

19頁 1125-1→削除

2045 →削除

20頁 2048 テイルベアリング(ブッシュ)→KC1050ベアリング

2049-1 ブッシュ→R1350ZZ ベアリング

2050-1 ブッシュ→R1650 ベアリング

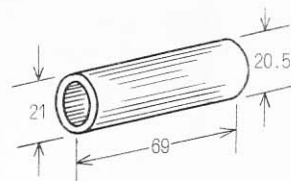
2057 626DD→626 ベアリング

2058 ブッシュ→607 ベアリング

2059 605ZZ→605 ベアリング

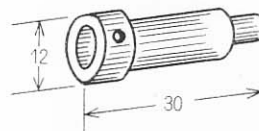
その他次のパーツが追加されています。

○2013-2 インナースリーブ



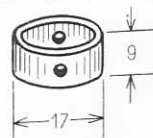
2013のテールパイプ補強用  
(黒色ナイロン製)

○OS40FSR用スロットアダプター



OS4B型キャブレター専用  
のアダプター  
(アルミ製)

○ロータードライブギヤー用リング



シンチュウ、クロームメッキ  
仕上げ

2059-1 ブッシュ→605 ベアリング

2064～6 数 3→2

○ボルトセット・リスト

No.14 M3ナイロンナット 74→70

No.15 M3ナット 4→5

No.19 M3×4セット・スクリユウ 4→8

追加 M3×8キャップ・ボルト 4

// 菊座金 4

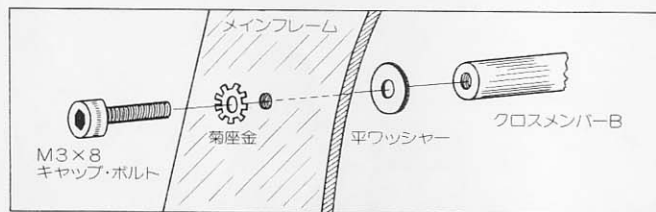
## ●組立て方の変更

4頁 No.1～2 クーリングファンはテーパースペーサーを使用せ



ず、プロペラを取り付けるのと同様に取付けて下さい。従ってエンジンのドライブワッシャーは外さずに、そのまま使用します。又、クーリングファンの内径は各種のエンジンに使用できるよう3段階になっておりますのでプロペラリーマー等で御使用のエンジンのシャフトに合せて削って下さい。

- 6頁 No14 クロスメンバーBは外側よりボルトで取り付けるよう変更になっております。図のようにM3×8キャップ・ボルト、平ワッシャー、菊座金を使用して取付けて下さい。



- 8頁 No26 ロータードライブギヤーを取り付ける時、ギヤーのボスにリングをかぶせて下さい。

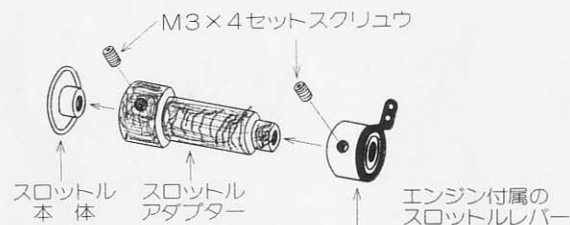
- 9頁 No30 クロスメンバーAの残りの2本は16頁のNo70の脚の取り付け時に写真のように、メインフレームと脚の間に取り付けて下さい。

- 11頁 No39 キャップ側より挿入しにくい場合は逆側から入れると容易に挿入する事ができます。この時、シャフトを押すとベアリングとシャフトの接着が外れることがありますのでテールジョイントを利用し、ベアリングを押して入れるようにして下さい。

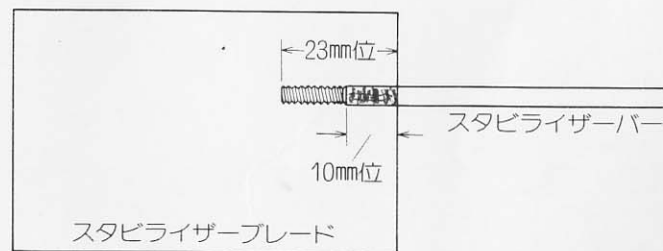
- 13頁 No52 テールドライブシャフトガイドを固定したら、インナ

ースリーブを細い方から、パイプの端まで挿入して下さい。

- 14頁 No60 エンヤエンジンを使用する場合は説明書の通りですが、OS40FSRを使用する場合は専用のスロットルアダプターを使用して、図のように取付けます。



- 18頁 No78 スタビライザーバーはスタビライザーブレードに図のようにネジの部分からさらに10mm位深く入れて下さい。この場合先ずスタビライザーバーのネジから10mmの所にマジックインキ等で印をつけておき、その印まで必ず入れるようにして下さい。



## ●その他の注意

本機に使用しているスワッシュプレートは特殊な樹脂を使用しており、特に給油の必要はありませんので、そのまま御使用下さい。尚液状のオイルは絶対に使用しないようにして下さい。